



戦国ファンタジー
滋賀・琵琶湖
SENGOKU WONDERLAND Shiga Biwako

第22回

令和を彩る

近江八幡灯り事業

―町並みと灯り―

八幡堀まつり

2019年
10月12日(土)

会場 八幡堀周辺と町並み一帯

時間 18:00 ~ 21:00

有料施設の無料開館(一部を除く)や非公開施設の特別公開など
楽しい町並みと灯りの祭典です。

時代劇の町と言われる古(いにしえ)の町並み近江八幡。
灯りに照らされる八幡堀や町並み、八幡山から眺める近江
八幡の夜景、かわらミュージアムの夜間特別開館、町家の
公開やコンサートなどなど。

近江八幡に初めてお越しになる方も長年住んでいる市民も、
きっと、このまちの魅力や風情を感じて頂けると思います。

各施設等で
催しやコンサートが
開催されます

お問い合わせ



近江八幡観光物産協会

OMIHACHIMAN TOURISM ASSOCIATION

〒523-0864

滋賀県近江八幡市為心町元9番地1(白雲館内)

TEL 0748-32-7003

<https://www.omi8.com>



主催/(一社)近江八幡観光物産協会 後援/近江八幡市・八幡堀を守る会・近江八幡市連合自治会・radio・(一財)近江八幡地域勤労者福祉サービスセンター

よみがえった八幡堀

「八幡開町の祖 豊臣秀次公と八幡山城」

1585(天正13)年、羽柴(豊臣)秀次は秀吉より43万石を与えられ、琵琶湖の東岸、近江国八幡山に城を築き、城下町を開町しました。十月十五日(閏年八月二十二日)八幡開町の日、豊臣秀吉公封地状の日付です。この築城、町づくりは、自由商業都市を目指して大々的に行われ、八幡山の掘削、沼沢地の埋立て、上下水道まで都市計画として整備され、碁盤上に区切った城下町に居住区を設けて、安土城下などの商人・職人を呼び寄せました。この築城の折に八幡山周囲に外堀として八幡堀を開削しました。これは、八幡山城を防御する軍事的な役割と、当時の物流の要であった琵琶湖の水運をつなぐ運河の役割を兼ね備え、東海道と中山道と北国街道が交差する陸路交通の要衝である地の利も生かして、八幡浦は湖上三親浦(他に大津、堅田)のひとつに数えられる港町として栄えました。彦根藩「直孝様被仰付候湖浦改書」からも判るように、現在の白雲橋を中心にして西が南津田までの3000mあまりと東側が北之庄までの1000mあまりの範囲で、八幡堀全体が八幡浦の舟人となっていました。なお、江戸時代の八幡浦の丸子船の隻数は時期により変遷していますが、32〜42隻が記録されています。



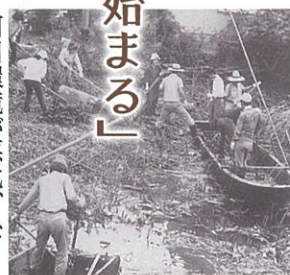
「八幡堀と八幡商人」

1595(文禄4)年、秀次の自害を受けて八幡山城は築城から10年足らずで廃城となりました。しかし、城下町は商家町として存続し、京都・美濃国・伊勢国・若狭国などの近隣地域が中心であった行商を、徐々に活動地域や事業を日本全国に拡大させ、中には朱印船貿易を行う者も現れ、鎖国体制が整えられるまでは、安南屋(ベトナム)や暹羅屋(シヤム)など海外に進出する商家もありました。近江商人(八幡商人)は、地の利を活かし、地場産物(畳表、蚊帳、米、酒など)を陸路や水路を利用して各地へ搬出し、各地の産物を持ち帰り、再び各地へ送り出すといった「諸国産物回し」と呼ばれる商法によって、各地の産業振興に貢献しました。江戸中期以降の八幡は、株仲間体制の下で発展し、江戸や大阪に店を構え、流通業や金融業に乗り出し、醸造業を営む者や蝦夷地(現在の北海道)で場所請負人など、近江商人の名は知れ渡りました。また、近江商人の商売哲学「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」は、他国での商売を通じて生まれた概念です。幕末から明治維新にかけての混乱で没落する商人もいましたが、西川産業(大杉町西川甚五郎邸)のように社会の近代化に適応して存続・発展し、今日の大企業の中に近江商人の系譜を引くものは少なくありません。



「埋めた時から後悔が始まる」

道路網の整備と自動車の普及等により、舟運の役割を終えた八幡堀は、1965〜1974年(昭和40年代)の始めの頃より河川環境が悪化、ヘドロの堆積、水位の低下、水の腐敗、ホテイアオイや草の繁茂、ゴミの投棄も見られ、夏には耐えがたい悪臭が漂いました。行政は堀を埋めて駐車場にする方向を取っていました。

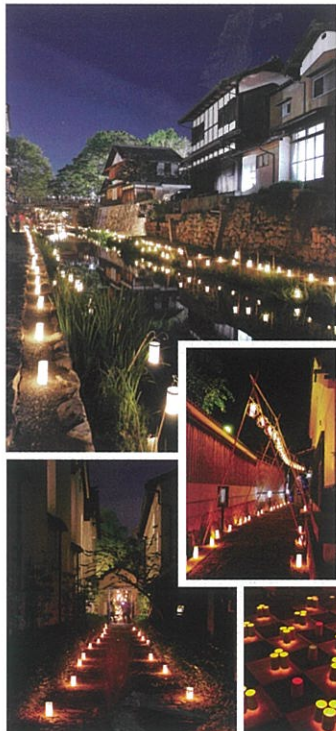


近江八幡青年会議所の「全面浚渫(しゅんせつ)」、歴史ある八幡堀としてよみがえってほしい」という呼びかけに呼応して、市民が堀の清掃活動に加わりました。市民運動が起りました。

この市民参加の八幡堀の「ドブざらい」1975(昭和50)年等が県の改修方法の見直しの判断に大きな影響を与えました。

この「呼びかけの内容」は、単に浚渫を行って環境の悪化を解消するだけでなく、堀をよみがえらせるといふ景観や町なみの思いが込められているため、以後の「重要伝統的建造物群保存地区」と「重要文化的景観地区選定」に代表される「町なみ」や「水郷」の再生や保全につながっていききました。

「八幡堀まつり・竹あかり」



「NPO法人 秀次倶楽部」

近江商人の誕生や町の繁栄をもたらした八幡堀は、今も昔も近江八幡のシンボルです。市内では、八幡山の城主である豊臣秀次を顕彰するため「NPO法人 秀次倶楽部」が活動しています。八幡堀まつり当日は、子どもたちの武者行列があります。秀次公が近江八幡に封ぜられたとされる10月15日は、「秀次談義」講演会を開催します。

近江八幡灯り事業 - 町並みと灯り -

八幡堀まつり

10月12日(土) 18:00 ~ 21:00

手作りの灯りやガラスコップの灯り(約3,500個)で町並みを彩ります。各施設の雰囲気等を活かした情緒あるコンサートを計画しています。様々な楽器が奏でる音色を是非お楽しみ下さい。

当日は、有料施設が無料(一部を除く)で入館できます。18:00~21:00が特別対象時間となります

飲食店情報は当日用のチラシにて紹介します

市内散策及び施設の見学の際は、マナーや館内の規則をお守り下さい。※安全に快適に楽しんで頂けるよう写真撮影の際は、三脚の使用を禁止させて頂いております。ご理解ご協力の程お願い致します

パーク&バスライド実施 シャトルバス運行



公共交通機関での移動が困難など、やむを得ずマイカーでお越しの方は市役所臨時駐車場(旧市民病院跡)へ駐車しシャトルバスをご利用ください。

料金/1台につき 300円(シャトルバス利用の場合)

市役所臨時駐車場



市営小幡観光駐車場

テレフォンガイド

- 近江タクシー湖東 TEL 0748-37-0106
- 市営小幡観光駐車場 TEL 0748-33-2411
- 滋賀第一交通(タクシー) TEL 0120-377-535
- 近江鉄道バスあやめ営業所 TEL 077-589-2000
- 長命寺タクシー TEL 0748-32-2198
- 駅リンくん(レンタサイクル) TEL 0748-32-1134

近江八幡駅北口より八幡堀周辺へは、バスで7~8分徒歩で約30分かかります(駅前にタクシーは常駐)

お問い合わせ(9時~17時)

近江八幡観光物産協会

https://www.omi8.com
https://www.facebook.com/omi8kb
TEL 0748-32-7003

近江八幡駅北口観光案内所 TEL 0748-33-6061

安土駅観光案内所 TEL 0748-46-4234

